

令和４年度第２回 徳島県スポーツ推進審議会 議事録

I 日 時

令和４年８月３１日（水） 午後２時から午後４時まで

II 場 所

徳島グランヴィリオホテル グランヴィリオホール

III 出席者

【委 員】２０名中１５名出席

高原清秀会長、佐藤充宏副会長、安藤七海委員、伊藤典文委員、
岡部裕子委員（リモート）、小谷敏弘委員、佐伯美千代委員、
土岡美紀委員、鶴真美委員（リモート）、中井優子委員、
中田恵莉子委員（リモート）、永原レキ委員（リモート）、
村上亜弥子委員（リモート）、山口鉄生委員（リモート）、吉野誠委員

【事務局】未来創生文化部副部長、スポーツ振興課長、体育健康安全課長、
ダイバーシティ推進課長ほか

IV 内 容

開会

議事

（１）現 徳島県スポーツ推進計画の進捗状況について

（２）次期 徳島県スポーツ推進計画中間取りまとめ案について

閉会

≪配付資料≫

- | | |
|------------------------------|-----|
| ○ 令和４年度スポーツ関連施策について | 資料１ |
| ○ 現 徳島県スポーツ推進計画の進捗状況等について | 資料２ |
| ○ 次期 徳島県スポーツ推進計画中間取りまとめ案（概要） | 資料３ |
| ○ 徳島県スポーツ推進計画（素案） | 資料４ |
| ○ 第２期徳島県スポーツ推進計画 | 参考１ |

V 議事録

開会

☆会長

それでは議事に移りたいと思います。委員各位には御協力のほど、よろしくお願いいたします。まず、事務局より「議事（1）現 徳島県スポーツ推進計画の進捗状況」について説明をお願いします。

◆事務局

資料 1、2 に基づき説明

☆会長

ただいま事務局より説明がありました。説明に対して御質問、御意見をお受けしたいと思っておりますので、どうぞ積極的な発言をよろしくお願いいたします。資料の訂正もありましたので、御確認いただいて、どなたからでも結構です。いかがでしょうか。

それでは続いて説明をいただいて、その後まとめて御意見・御質問いただくようにしたいと思います。続きまして「議事（2）徳島県スポーツ推進計画中間とりまとめ案」について、事務局より説明をお願いします。

◆事務局

資料 3、4 に基づき説明

☆会長

それでは資料 3、資料 4 について説明がありましたので、御意見・御質問を受けたいと思います。どなたからでも結構です。どうぞ忌憚のない御意見をお願いいたします。

○委員

障がい者のスポーツ参画ということで21ページにありますが、前任校の小学校にパラアスリートの方に来ていただいて交流を行いました。2年前はコロナでそれができなかったんですが、その前年にオリンピックで活躍した方に来ていただき、子ども達は大変刺激を受けて、障がいに負けない方との交流によって、自分も頑張っていこうと決意する等、影響を受けておりました。

昨年度は、事故にあっても、それに負けずスポーツによって自分の道を見つけた方との交

流を行うことによって、子どもだからこそ偏見もなく本当に楽しく活動をしていました。また、自分たちの今までの考え方や生き方を振り返り、真剣に考える子もいました。これらのことから、私はこのスポーツの参画が子どもたちにとって大変いいことだと思いました。

それと、これも前任校のことですが、オリパラ事業を受けていました。この時も海外の方で障がいになけないで、車いすで長距離マラソンの競技に取り組んでいるアスリートの方のことをDVDで勉強する中で子どもたちが感動したり、自分を振り返って考えたりする姿が見られました。このことからやはりこの障がいスポーツの参画、また障がいスポーツの理解ということでこの事業をもっともっと推進していただけたらなあと思いました。

もう一点、スポーツ推進計画に記載されていた子どもの運動好きに関連して、県教育委員会に「はつらつサポート」という事業をずっとしていただいております。今年度も本校に鳴門教育大学の先生と、それから県の方からも来ていただいて体力、体作りについて教えていただきました。やはり外部の方から来ていただくと、教員にとっても勉強になりますし、子ども達が大変喜んで、しっかり体を動かしていました。1時間だったんですが、こんなふうな体の動かし方があるんだってということで教職員や子どもたちにとって、たいへん勉強になりました。昨年度は水泳というふうにいろいろな種目で来ていただいております。これもぜひしっかりと続けていただきたいと思います。子どもたちは本当に運動が好きなので、運動の仕方を教わったり、いろんな方に来ていただいて刺激を受けたりすることで、ますます運動が好きになると思います。これからも引き続き取り組んでいただけたらと思います。以上です。

◆事務局（ダイバーシティ推進課長）

障がい者のスポーツ、トップアスリートによる講演会を、ここの委員でもあります岡部選手にもお願いしております、非常に好評いただいております。今年度も引き続きやっておりまして、これからも、このスポーツの計画の期間中ずっと続けていきたいと思っております。それと同時に、障がいのある方とない方との交流みたいなものもどんどん広げていきたいと思っております、目標の方にも掲げておりますので、今後とも頑張っていきたいと思っております。ありがとうございます。

◆事務局（体育健康安全課長）

ただいま御意見頂きました「はつらつサポート」につきましてでございますけれども、この事業は小学校の体育授業に専門的な知識と経験のある大学の教員や教育委員会の指導主事等を派遣しまして、実践例を示すことによって、運動好きで運動が得意な子どもの育成を図るとともに、小学校の教員の指導力を高め、さらに新体力調査のデータから支援が必要な学校とか、その課題を把握して、その支援内容を作成して、サポートの充実を図るも

のでございます。

本県の状況でございますけれども、ただいま説明の方でもありましたが、運動好きの子どもの割合は全国平均を上回る高い傾向を示しております。しかしながら、体力調査の結果におきましては残念ながら全国平均を下回っているというような現状がございます。せっかく運動好きの子どもたちがたくさんいるというようなところをしっかりと生かしまして、さらに運動好きじゃない子どもたちを運動好きに、運動好きな子どもたちの体力もさらに伸ばしたいというふうな目的を持って行っております。本年度令和4年度は74校の学校で実施する予定でございます。ただいま御意見の中にもありましたように、この事業は子どもたち、それから小学校の先生方にも大変好評いただいておりますので、しっかり活用しまして徳島県の子どもの体力の向上、そして運動好きの子どもたちを育てていきたいというふうに考えております。以上でございます。

☆会長

ありがとうございました。続いて、御意見・御質問頂けたらありがたいと思います。司会者が喋るのも何かと思うんですが、一般の方にも審議会の内容は公表されるということで、本当に基本的なことなんですけれども、スポーツ実施率の算出方法と子どもたちの運動時間の算出方法を教えていただけませんか？

◆事務局（スポーツ振興課長）

今、会長から施策目標に掲げている成人の週1回以上のスポーツ実施率ともう一点の質問を教えていただけますか。

☆会長

成人のスポーツ実施率の計算の方法について教えてください。それと、もう1点は教育委員会の集計で計算してるんだと思います。

◆事務局（スポーツ振興課長）

成人の週1回のスポーツ実施率につきましては、県の方でeモニターアンケートといって、おそらく200人程モニターさんを募りまして、その方にアンケートをして集計したもので、調査については担当のほうから伝えさせていただきます。

◆事務局

県が行っております、eモニターアンケートの方でアンケートに答えていただきまして、「この1年間でスポーツをしましたか？」という問いに「はい」と答えていただいた方の中で、「どの程度のスポーツをしましたか？」という問いに、「週に1回以上スポーツをした」

と答えていただいた方の割合がスポーツ実施率となっております。

☆会長

ありがとうございます。

◆事務局（体育健康安全課長）

子どもたちのスポーツ実施率ですが、スポーツ庁の全国調査、全国体力運動能力運動習慣等調査による質問調査の内容となっております。具体的な質問の仕方は、体育授業以外での1週間の総運動時間という形で調査をしています。以上です。

☆会長

ありがとうございました。今のような方法で、回数それから時間が計算されているようです。続けて、御質問をお受けします。どうぞよろしくお願いします。

○委員

私はまずさっきおっしゃってた、子どもの運動習慣ということですね、子どもがスポーツ・運動が好きだというのが高い評価ということだったんですけども、大人になると運動習慣がなくなるというのは、やっぱり学校教育時代のスポーツのイメージというのが、ここでは楽しい、好きだとなっているんですけども、やっぱりそれでもきついか運動競技的なものはしんどくて上手く出来ないのも楽しくないという声も一方で聞いたりするんですね。なので、切れ目なく生涯習慣的に運動を続けていけるように、やっぱり幼少期、ちっちゃい頃からもっともっと真剣に取り組んでいかなければいけないなと思うんです。

さっき言ったこの運動習慣に繋げる施策を考えていくってことなので、こういったものも具体的に案があるのかっていうのと、私たちが地域で取り組んでいる総合型クラブと一緒に取り組むべき内容かなとすごく思うんです。普段地域でスポーツしていると、まだまだ地域で習慣的にスポーツしているっていう方は少ないので、そういった方たちをどうやって取り込むかっていうのを日々考えているんですけども、何かこういった具体的なものがあれば、御意見を聞かせていただきたいと思います。

◆事務局（体育健康安全課長）

徳島県の子供達達は運動が好きなお子が多い。それを大人になっても運動が好きで続けていけるような、そういう方策についての御意見があったと思うんですけども、先ほどのはつらつサポートの中でも触れさせていただいたんですが、小さい頃は体を動かすことそのものが楽しいというような子供達もたくさんいると思うんですけども、体

育授業等の中で単に体を動かすことだけではなく、できなかったことができるようになるというようなこと、それから運動が得意になっていくというような体験っていうことが、小学校から、中学校、そして高校、また社会に出てからも非常に大事な考えというか、自分自身の能力になっていくと思っております。ですから、小学校の体育の授業におきまして、成功体験をできるだけ積めるようなそういう体育授業の中身、できなかったことができてよかったなあ、やればできるんだ。本人もそれによって、自分に自信を持っていくと、それが年齢を経てもスポーツを続けていく大きなステップになるのではないかというふうに考えておりまして、はつらつサポートの中でもそのことを大事にしながら事業を進めておるといふようなところでございます。以上です。

○委員

ありがとうございます。クラブにも、いろんなダンスができる先生であったり、また県南には海という環境があったり、山や川もありますので、そういったところでもできるような、いろんなスポーツがあるので楽しめる体験ができるような、課外授業なりですね、そういうものも含めて考えていただけたらもっといいのかなと思いました。お願いします。

☆会長

ありがとうございます。続いていかがでしょうか。

○委員

色々な施策は実現に向けて我々も協力をさせていただくという意気込みではあるんですけど、資料1の中に、最近自転車に乗ってないもんで全然わからなかったんですが、自転車王国ですか、徳島がそういう取組をされているっていうのを発見したんですけども、この中にサイクルツーリズム云々っていう、例えば自転車王国とくしまのブランド力を生かしてっていう項目があると思うんですけど、ネットで見てこの狙いの中に色々、観光振興とか、環境問題、あと交通マナーっていうところに非常に目がいました。この会とは全く違うんですけど、徳島スマートドライバーセーフティラリーというのをずっと県警さんがやられているのに、当社もいろいろ参画をさせていただいているんですが、毎年県警さんが出される課題の中に自転車のマナーがむちゃくちゃ悪いというのがあります。こういう自転車王国というのを立ち上げる割には自転車のマナーが悪くてというのを県警の方が言われて、こういう取組を通じて、例えばトップアスリートの方とかが来たときに、自転車の交通マナーとかそういうものをあげていくっていうのであれば、例えば一流の方から、そういうことも指導するということが最終的にはいろいろなところの効果を生んでいくんじゃないかなと思ひまして、僕は今年の計画ですよね、非常に面白いなと思った

ので、色々なところと連携をしながら最終的には盛り上がってってくれるのであれば、スポーツの中だけではなくて、そういうことをいろいろやられてることなんかコラボしていくっていうのも非常に面白いんじゃないかなと思いました。切り口としては全然関係ないところで申し訳ないんですけど、少しお話をさせていただきました。

◆事務局（スポーツ振興課長）

ありがとうございます。本県では「自転車王国とくしま」と銘打ちまして自転車の利用、環境にも優しい、このコロナの時代にも合っているというところで、できるだけ裾野を広げていこうという取組を行っております。例えば、鳴門の渦の道あたりから徳島駅までの自転車道を指定して、それをパンフレット等に落として自転車を楽しんでいただくとか、県内で25コースの公式コースを作っております、そこを楽しんでいただくとか。その他、自転車に関するイベントとしては、10人単位とかを対象にしている委託事業なんですけど、県内の、例えば今度神山であるんですが、1日、神山の食と文化観光を楽しむというツアーを組んで参加者を募ってというイベントもやっております。その中で交通マナーについても、当然マナーっていうのは命にもかかわることなので、自転車を楽しむと同時にマナーの向上というのも目指していかないといけないと思っていますので、そのあたり指導といいますか、インストラクターの方と連携してマナーの向上につながるように、かつ、自転車を楽しんで、裾野を広げていけるように、地道な取組を行っていきたいと考えております。以上です。

☆会長

ありがとうございました。続いていかがでしょうか。

○委員

資料2の18ページの総合型地域スポーツクラブのことを基本からお聞きして恐縮ですが、現在県内に何箇所のクラブがあるのでしょうか？委員さんにも総合型クラブの方がいらっしゃると思いますが、まず基本的にどれだけのクラブがあり、法人取得が令和3年度で9ということかと思うんですが、まずそこを教えていただけますでしょうか？

◆事務局（スポーツ振興課長）

現在県下において、24市町村あるうちの22市町村で合計36クラブが総合型地域スポーツクラブとして活動をいただいている状況でございます。

○委員

ありがとうございます。その36クラブのうち、現状で法人取得されているのが、何か所で

いらっしゃるんですか？

◆事務局（スポーツ振興課長）

資料2の18ページ、施策目標の「総合型クラブの法人取得等の自立を促進」ということで、現状で法人取得どのくらいしているのかというところですが、先ほどの訂正させてください。現在30クラブです。総合型地域クラブを運営していくのがかなり大変というところで、地域で維持していただけてますので、なかなか増えるところはないんですけど、もうやめますというところは出ておまして。失礼しました。30クラブのうちの法人取得、NPO法人等々取得しているのが、4年度の途中ですが、現在のところ8クラブということでございます。

○委員

お手数をおかけしました。ありがとうございます。本年度から登録・認証制度がスタートということですが、今おっしゃったようになかなか経営していく厳しさがある中で、クラブがある程度安定して活動できるように、法人取得によって助成をなさるとか、そういう財政基盤強化のための助成制度がスタートするというところで、そこに登録していただければ、クラブにとっても活動が安定するという趣旨かと思われるんですけども、それはそれで進めていかれることと思うんですが、なぜ、お聞きしましたかという、運動部活の地域移行に向けたところとの関係性において、先日も一昨日ですかね、部活動の地域移行推進協議会の初会合が開かれたようで、この部分については地域でモデル校指定なさって、実際にトライアルもなさっているというふうにもお聞きしております。

中学校の部活動を地域に移行させていくという国の方針に沿う形で県内ではどういう形でそれができるのかっていう、取組が進んでいくと思うんですが、その一つの受け皿として、総合型地域スポーツクラブもその受け皿となり得るということで、クラブとの連携とか模索していかれると思うんですけども、そことの関係性で、クラブが安定して運営できることも中学指導するような受け皿になり得るための1つの要素かと思います。

このタイミングでお聞かせ頂きたいんですが、例えば総合型地域スポーツクラブさんが受け皿となり得る為に、何かしらこういうふうなところがもっとよりあれば、そうなり得るのかな、っていうところをどのように捉えていらっしゃるのか、どのように捉えていらっしゃるからこそそこを受け皿として推進していかれようとしているのか、県の方の考えと、もしよければ、総合型地域スポーツクラブの委員さんにも、中学校部活の受け皿となるためにはどういうふうなことが考えられるのか、課題をどのように捉えていらっしゃるのか、お聞かせ願えたらありがたいと思います。よろしくお願いします。

◆事務局（スポーツ振興課長）

まずは総合型地域スポーツクラブを所管しておりますスポーツ振興課の方で答えられる範囲でお答えさせていただきます。最近議論が進んでおります運動部活動の地域移行について、当然私共の方も総合型地域スポーツクラブがその1つの受け皿にはなり得るのではないかなと思ってます。そのためにはやっぱり指導できる人材が必要なのかなと思ってまして。その人材を養成していくというのも1つ、総合型地域スポーツクラブの役目ではないかと考えております。その上でできるだけ受け皿としての機能を果たし、運動部活動改革が推進していけたらいいのかなというふうに考えております。具体的に今何をというのは、これから検討していくということで御理解いただきたいと思います。

◆事務局（体育健康安全課長）

今スポーツ振興課の方からもお話いただきましたように、この地域移行に向けましては受け皿となる主催する団体、それから指導者の確保等が、本県でも非常に大きな問題・課題になってくると思っております。その中で例えば、スポーツ庁が出しております1つの方策としては総合型地域スポーツクラブの方でというふうなことを言われておりますけれども、なかなか中学校の部活動の指導を受け入れて活動ができる本県の総合型地域スポーツクラブ、どの程度あるのかっていうことに関しましては、県の教育委員会としては、正確に現在把握もできておりませんので一昨日の推進協議会の中では各市町村におきまして、その受け皿となれるような総合型地域スポーツクラブがそれぞれの場所にどの程度あるのかというような、各市町村の資源等をしっかり把握が必要であるということもお話に出ました。そんなところも含めまして、しっかり県内それから各市町村の受け皿となる組織、そして指導者等の把握というところがまず大事な必要なのかなというふうに考えております。以上です。

○委員

この議題というか、議案につきましては協議会でも何度も話になって、皆さんそれぞれ地域のクラブによっても活動が様々なので、そのまま受け入れるかというところすごく難しいという問題もあります。今さっき言った指導者派遣となるとそれに伴う資金的なものとかですね。費用はどこが負担するのかとか、細かいことまですごい議論が出てきまして、始まるとすごい課題が山積みなんです。で、各地域に返ってみると、ほとんど教育委員会とか、スポーツ協会なんかとなかなかこう交えて話すっていうこともないので、私たちも国はそういう方針なんでしょうけれども、地域的にはどうなのかなって、地域が置いてけぼりのような感じで、何も進んでいないというのが現状です。でも大事なことで、一番大事なのはやっぱり子どもたちですし、実際外部からとなったら、平日は先生が指導して試合だけ休みの日は外部の先生というのは、実際問題になると本当にあり得るのかなとかい

いろいろなそういった細かい問題とか話しながらなので、なかなか難しいのかなというのが現状です。以上です。

☆会長

ありがとうございました。

○委員

まずは把握というようなことでいらっしゃるし、地域の実情というものと国の施策がどれだけこうマッチしているのか、乖離しているのかってところの見極めもものすごく大事なことから受け止めておりますので、引き続きトライしながらいろんなことを探られると思いますので、どうぞまた御指導よろしくお願いいたします。ありがとうございました。

☆会長

後出しになって申し訳ございません。総合型地域スポーツクラブの登録・認証という表現が、先ほどの資料の中ほどに出てくるんですけれども、県のスポーツ協会の中の広域スポーツセンターで担当しております。スポーツ庁の指導によって、少し先なんですけども11月1日から新しい総合型スポーツクラブになります。そのために登録・認証の作業を今、進めております。主な内容は規則ですとか組織ですとか財政ですが、そのあたりをチェックして、体力をつけるためのいろんな指導をしていくと、そういうことになっております。佐藤先生にも御協力いただいて、1つ1つのクラブをチェックして、先ほどの中学校の部活に対してもどこまで御協力ができるか、その辺りをそれぞれのクラブに説明して、この後の活動を考えていただくというようなことで現在作業を進めております。

まだ続いて御質問を受けたいと思います。どうでしょうか。

○委員

質問とかではないんですけど、この資料4を見てると、我々プロスポーツとしては関わることとかも非常に多いのかなというふうに思いながら読んでました。私達は小さい子だったら4歳とか、キッズの子たちからお年寄りの方までいろんな方と一緒にスポーツをする機会を設けているんですけれども、その中でやっぱり我々の年代とか30代40代位の方と一緒にスポーツをする機会というのが、クラブとしても持てないなあというのは私自身感じてました。

以前、県のスポーツ協会さんがコロナ前にポカリスエットスタジアムでナイトヨガというイベントをされたんですけど、それに参加させてもらって非常に女性の参加率も高かったですし、そういう普段は入れないような施設でスポーツをする、運動するっていうのは、非常に気持ちも良かったので、もちろん子どもだったり、お年寄りのスポーツということこ

るも重要性は感じているんですけども、今できてないなあっていう年代だったりとか参加しにくい、なかなか普段スポーツしにくいなっていう年代の方が、しなきゃいけないというよりは、楽しく友達と行けるとかデートの場として行けるとか、何かこうイベント的なスポーツや運動などの取組の場があったらいいのかなっていうふうには思ってます。そういうのは我々プロスポーツとしても、課題には感じておりますので、御協力させていただける部分があれば、一緒にやっていきたいなあと思っております。

資料の中にホストタウンを契機にっていうところもあるんですけど、現在当社では大塚製薬さんと一緒に共同事業として、アジアでの活動を今年始めました。まだ始めて数ヶ月なので、何ができているかっていうところがあるんですけども、今1つ目の事業として、カンボジアのサッカーチームでセレクションをして選ばれた2名が当社チームのアカデミー中学生、高校生年代に入って2週間ぐらいの短期なんですけれども、留学をしてもらって一緒にサッカーをして交流をしようというのを進めています。カンボジアでセレクションをもらったんですけども、カンボジア国内で2,500人ぐらいの参加があったと聞いてます。その中で最終的には2名選ばれてます。その参加者2,500人の中には、もちろん富裕層と呼ばれる子たちもいたんですけど、本当に露店とか農家とか苦しい生活をしているような子たちもいて、その中でやっぱり日本にサッカーで行けるっていうところに非常に魅力を感じて参加してくれた子がたくさんいたと聞いております。2週間来てもらうんですけど、サッカーだけでなく県内の色々な施設であったりとか、今、県のみなさんと協力して進めさせていただいているんですけども、学校訪問であったりとかそういうところも含めて、ずっと2週間スポーツするわけではないんですけども、きっかけがサッカーというスポーツで、海外の子たちと日本の、ここ徳島で交流を進めていければと思います。その中で、大塚製薬さんの方からは栄養であったり、そういうお話っていうところもちろんしていただこうかなと思っておりますので、当社としては県内にこだわらず世界っていうところに目を向けて、我々はサッカーというものをきっかけにスポーツの良さだったりとか、徳島県の良さっていうところを広げていければなというふうに思ってます。これに関して県のいろんな課の皆さんの御協力が必要になるかと思っておりますので、質問じゃなくてお願いになっちゃうんですけども、ぜひ一緒に盛り上げていければと思いますので、引き続きよろしくお願いします。こんなことしてますという報告でした。

◆副部長

ありがとうございます。サッカーファンとして、ぜひお話をさせていただきたいなと思います。先週土曜日試合も見に行きまして、非常に劇的な勝利ということで、観るスポーツとして本当に最高の場だったかなと、地域にそういう楽しめるスポーツがあるというのは本当にありがたいことをごさいますて、毎週楽しみにさせていただいています。

そういった観るということでのきっかけもありますし、やっぱりおっしゃられた参加をし

ていくというところのきっかけ作りっていうのも、県でも確かにいろんなところで施策を講じながらやってますし、私自身、とくしまマラソンが10年以上前に始まったときに、それまで全然陸上にも関わったことはないですし、競技もしたことないんですけど、やっぱり走ってみようかなというところから、毎週走ったり、スポーツに関わると言いますか、やっていくきっかけになったという事がございました。

これからもワールドマスタースゲームズ、先に延びましたが誰でも参加できるそういった大会、全国レクリエーション大会でありますとか、そういった大きな行事も、県も取り組んでいく中でぜひ地域なり各事業者の皆様とか、団体の皆様にもそういった県民誰もが気軽に参加できるスポーツイベント的なところをいろいろ連携しながら取り組んでいただけると、きっかけが増えてスポーツがさらに振興されていくのかなと思いますので、引き続き御協力のほど、よろしくお願いいたします。ありがとうございます。

○委員

すごく些細なことで申し訳ないんですが、推進計画とも少しずれるかもしれませんが、気になったのでお聞きしたいと思います。コロナを機に安全にスポーツを実施することの大切さを学んだかと思います。安全という点で、地震対策などの災害に対するソフト面での対策っていうのは何かされているんでしょうか。例えば、スポーツ大会などにおいて会場周辺の地理を熟知しているスタッフ、熟知していないスタッフというのもあるかと思うんですけれども、特に徳島県は、南海トラフによる津波の問題は、滅多に起こることはないんですけど、短時間での正確な判断が求められるかなと思います。それに対する、現場のスタッフのリーダーは高台への避難経路を把握していなければならない等取り決めていることなどがあるのでしょうか？

◆事務局（ダイバーシティ推進課長）

御質問ありがとうございました。少し私の経験を喋りますと、7月末に車いすの方と一緒に海水浴をするといったイベントをやりました。その時には、避難経路を調べて万が一地震があったときはこうしようといったプランを立てて、避難場所を探しておいてそこまでどう移動するのかといったことを主催者と打合せをして、その上でやった経験があります。ただ、一般のスポーツでもそこまでするかという津波とかですね、その時はたまたま海水浴といったイベントだったので、そういう配慮が必要だと判断したんですが、一般的な対策以上のこととなると私の経験ではあまりないです。一般のスポーツでもこれからも配慮していかなければいけないというふうに考えておりますが、これ以上のことはコメントできません。ごめんなさい。

○委員

ありがとうございます。特に吉野川の河川敷で野球をやっているような大会とか指導者の方とかは危険性を捉えているのかなと気になりました。御意見ありがとうございます。

◆事務局（スポーツ振興課長）

一般的な話で申し訳ないのですが、特に南海トラフなどの災害はいつ、どこで起きるのか分からないので、起こった場合の危機管理は常に持っておかなければいけないと思います。これからイベントやスポーツ大会を開くときに県としてはそういった災害面での危機管理、安全に避難する等、命を守る行動が起こせるような対応を取れるように、そういった視点を持ちながら助言等行っていきたいと思っています。

○委員

会議も最後の方なのですが、少しだけ気になった初歩的なことを2点ほど御質問したいと思います。普段大学生の陸上選手と共に競技力向上に努めているのですが、大学として過去にスポーツ庁の事業でイベントを開催したことがあります。小学生を対象とした体力向上や中高生を対象にした専門的な事を過去にしたことがあります。今後もそういったことを陸上部として取り組んでいって徳島県のスポーツ振興に努めていきたいんですが、資料2の9ページですね、そういったことをするにあたって子どもの体力向上には大変興味があります。ここの目標達成に向けての課題方向性として、小5、中2の運動時間が減少していると書かれているんですけどその理由を知りたいのが1点と、先ほどからも何回か出たんですが運動が好きなのに運動能力が高まらない理由そして、その好きといったものはどういう好きなのか。観るのが好きなのか、実際に自分が汗をかいて運動するのが好きなのか。そういったところもお分かりになるのであれば教えていただいて、今後そういった学年を対象にイベントを開催できたらと考えます。

◆事務局（体育健康安全課長）

御質問ありがとうございます。資料2の9ページですが、体育の時間以外での運動時間の確保が図られていない原因でありますけれども、1つは今スクリーンタイムですね。小学生でもYouTubeや、様々なスマートフォン等の画面を見る時間が増えている。なかなか、外や体育館での運動時間が増えていかないのが1つ。そして令和3年度の全国調査なんですが、この時はコロナ禍で学校の体育の授業の制限や、小学校の場合は業間での外遊びの制限があり、とにかく学校で集団的に活動するということが制限された期間でありましたので、この辺りの運動時間の確保が図られなかったと考えられます。それから、運動が好きなのに体力が上がらないのは、ひとつに特に小学校の先生においては、体育が専門の先生でなく全ての教科を1人の先生が教えている現状があるので、中学・高校のように体育の

専門の先生が教えているわけではありませんので、どうしても得意不得意が出てくると思います。その中で、好きな子どもをさらに増やす、好きな子どもに自信を持たせることが大切だと思っておりますので、専門的な指導者やスポーツクラブのインストラクター含めて大学の先生、教育委員会の指導主事等に入ってもらって、生徒達にできる事を学ばせてあげたいと、小学校の先生にも色々な形の体育の授業を勉強していただいて、子どもたちに還元していただく機会を作っていきたいと思っております。

○委員

資料4の21ページのところで基本目標3「豊かなとくしまの推進」といった柱の(1)障がい者のスポーツ参画というところの①のところに障がい者のスポーツに関係する部分を包括的に記載をいただいております。ありがとうございます。前回の発言を踏まえてかもしれないですが、このように全体的に記載をしていただくというところで、最後の方に協会の運営を補助しますということで大変心強いなと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

私の方からは、この場をお借りしてコメントさせていただきますと、徳島県障がい者スポーツ協会の立場として県内の運営上、関係先は福祉施設の利用者・団体、最近では特に特別支援学校との関係、各競技団体、障がい者スポーツ団体はもちろん、県サッカー協会、各大学、県・市町村の行政など多くの関係者の方とのネットワークが大事と思っています。先ほど話題にもなりましたが、コロナ禍の中であるので、福祉施設などでは外部との接触は大変神経質になっている状況ですので、まだまだ限定された空間の中でしかスポーツが楽しめてない環境です。今後、コロナの状況に注意しながら徐々にかつての日常を回復していくのかなと思います。ただ、いつまでも慎重なままではいけないので、関係者間のネットワーク・知恵をいただきながら、多くの障がい者の方にもスポーツを楽しむ機会を提供できたらと思います。

1つ私共の取組をこの場で紹介させていただくと、「ボッチャ」というのがリオデジャネイロパラリンピックで話題を呼び、障がい者スポーツ協会でも県東部・県西部に出向いて地域内のブロック大会や、3地域の中でのブロック大会、全県大会という事で徳島市の障がい者交流プラザやポカリスエットの体育館（アミノバリューホール）等で行うなど、より多くの方にボッチャを楽しんでいただけるように取り組んでいます。また、最近は特別支援学校の中で対抗戦をしており、高校生を中心として大変活気がありますので、オンラインで結んだりしながら学校間での交流をしながら楽しんでいます。そうした形で、いろいろな方々と連携・知恵を出しながら、コロナ禍などでいろいろとハンディはありますが、できるだけ楽しむ環境ができればと思います。ネットワークの形成を図りながら多くの方の知恵をいただいてこれからの、東京オリパラ2020の後、どうやって障がい者の方が文字通り身近な地域でスポーツが楽しむことができるかといったことについて、一生懸命取り組

んでいけたらと思っております。ここに書いていただいている文章の中身の方向性を持って、取り組むことができればと思っておりますので、特に総合型地域スポーツクラブとの関わりというのは、地域としても非常に重要かと思っておりますので、障がい者がそこでスポーツを楽しむ場合、指導者の面でどうなのかとか、機器がどうなのかとかアクセスする場合の交通費や手段はどうなのか等を丹念に見ながら、県全体として障がい者がスポーツを安全に楽しめる環境づくりについて、協会として取り組んで参りたいと考えておりますのでどうかよろしくお願いいたします。

1点質問ですが、この後、この推進計画の取りまとめはこれで終わりなのか、間に最後まで一度あるのか、質問としてお願いできたらと思います。

◆事務局（スポーツ振興課長）

改めて今後のスケジュールについては、この後担当から御説明させていただきますが、今日、とりまとめ案を御審議頂きましたので、それをもちましてパブリックコメントを実施したいと思います。それで、県民からの御意見を頂きましてその御意見や本日の御意見をこの中に反映させてそれを答申案といった形で最終取りまとめ、11月頃に最終の審議会、第3回の審議会で御審議頂きたい。そこで御承認頂きましたら、知事への答申といった形でこの審議会の成果として出します。そして12月、県議会の議論でこの計画を取りまとめたいと考えております。以上です。

○委員

ありがとうございました。もし最終仕上げの時に、障がい者が楽しんでいるような様子の写真が必要であれば、少しストックがあるので利用して頂けたらありがたいと思います。

◆事務局（スポーツ振興課長）

ありがとうございます。担当の方から資料の説明の時に申しましたが、現状と課題そして施策の中でグラフや写真が少し作業的に入れることができていない状況ですので、最終案の中にはそういったものも入れて手にとって頂きやすい、分かりやすい計画といったものと考えておりますので、また「こういった写真があるよ」といったことを教えて頂ければぜひ載せていきたいと考えておりますので、その時はよろしくお願いいたします。

○委員

質問ではないのですが、資料4の、オンラインを活用したスポーツの実施ということで、実際私共の総合型クラブでもオンライン配信を行っておりますので、その辺の報告も兼ねて現状をお知らせしたいと思います。

コロナ禍になって、オンラインといったデジタル化が社会的にも進んできたと思います

が、私共のクラブはオンラインとオフラインを同時に行っております。全部ではないんですがいくつかの教室をそういった形でやらせて頂いておりまして、実際この中でも、オンラインはしていなくてもYouTubeでフィットネスをしている方が結構増えています。オンラインでやるメリットは、昨日たまたまコロナで隔離中の方がリモート中に来てくださいましたが、YouTubeではできない相互間の安否確認や、隔離状況で元気はなかったのですがレッスンを受けて元気になりましたというような、運動だけでなくプラスアルファの部分が大きいのかなと思いました。

私のクラブでは、SNSの配信をして「オンラインレッスンありますよ」とお知らせをしているのですが、そういう方達にも何かお知らせする場があれば、他のところでも提供する場があればもっと色々な人に受けてもらえると感じました。先ほどもありましたように、総合型クラブが30あるんですが、実際オンラインが進んでいるのは3クラブです。なかなかそれ以上進んでいないのは、以前、技術面でのサポートやネット環境、機材の提供をお願いしたいとこの場でお話したことがありましたが、そういったものも大きな要素です。ネット環境は結構整備されている公共施設が多いんですが、技術の面で、ZOOMの利用はしたことある人だとたいしたハードルではないですが、やっていない人にしたらすごく高いハードルなので、その最初のサポートをどうやってしていくかというところは課題と思っています。私のクラブはまだ、海陽町の行政と結構連携して委託授業もさせていただいているので、今後はこういった地域の方だけでなく介護予防にも力をいれていこうかということで、今年度県のオンライン授業をさせていただきますが、そこでは介護施設に働きかけたり、山手などの遠方の方にもポケットWi-Fiなどを持って行ったりしながら配信できるかなとか、少しずつ新たな取組をしていこうと思っているので、少しずつですが前進しているかと思っていますので、引き続き御指導・御支援をお願いしたいと思います。以上です。

◆事務局（スポーツ振興課長）

関連した事業として、県の施策を1つ御紹介させて頂きたいと思います。スポーツDX推進事業として今年度新たに事業を行う予定にしていまして、スポーツ協会を拠点として可搬式の配信機材を一式揃えまして、スポーツの無関心層を対象に運動のきっかけとなるような初心者向けの教室的なものを配信できる設備をスポーツ協会の方で整えて、女性や高齢者の方、高齢者施設、障がい者施設向けにも配信することができますし、裾野が広がるのではと考えておりますので、これらを通じて運動実施に向けた県民の気運を醸成していけたらと考えます。以上です。

○委員

いろいろな意見を聞きまして、スポーツを通して県民の皆さんにもっと健康になっていただくためのいろいろな案がありすばらしいと感じました。

私は、幅広く仕事をしていて、総合型地域スポーツクラブさんの事業や、大学生の指導、「さわやかサポート」事業の方も10年間を通して何件か幼稚園の方に伺わせていただきました。その中で、1番大事なのは幼少期にどれだけ運動をしているか、そういった機会楽しさを感じてスポーツを好きになっていくことが大切なんじゃないかと私自身は感じております。大学生の運動の苦手な子に話を聞くと、小学校の頃に後転や逆上がりができなくて嫌いになったとわりと聞きます。そのためには幼少期に様々な運動を行うことで、いろんな運動神経を鍛えることが大事だと思います。「さわやかサポート事業」で幼稚園と一緒に伺った際には、親子体操をメインに私は仕事をさせて頂いたんですが、やはり幼少期に親子で一緒にやることで楽しさや、保護者の方もそこで子どもと一緒に体を動かすということで、運動に関わるということになりますので、これからもできれば幼少期の子達に親子で、いろんなイベントを通して、またヴォルティスさんの話もありましたが、イベントを県の方でもたくさん計画してやっていただけたらと思います。

あとは総合型地域スポーツクラブを何軒か伺って、いつも聞くのは予算的にきついといった話を聞きます。そういった事も踏まえて、県と総合型クラブの方で連携しながら取り組んでいただくと、部活のこともこれから大変になると思うので、できればたくさん話の場を設けて現場の話を聞きながら進めてもらえたらと思います。以上です。

◆事務局（スポーツ振興課長）

当課の方で総合型地域スポーツクラブを所管しております。スポーツ協会の方で連携をして、部活動改革の推進という受け皿となり得るものとなるように、これからも連携して皆様の御意見もお伺いしながら進めていけるようにやっていきたいと思っています。今後ともよろしくお願いいたします。

○委員

皆様のたくさんの御意見を聞いた中で、成人の週一回以上のスポーツについてといったお話がとても印象的だったと感じております。私自身徳島ヴォルティスの一般で募集しているイベントに2年前参加をして、人生で初めてサッカーのスパイクを買って、実際にTSVの芝生でサッカーをする機会がありまして、こんなにサッカーって楽しかったんだと思う機会でした。友人にも、県外から大学に通って新たにサーフィンを始めて、もっとうまくなりたいから海陽町に足を運んでみようとしているスポーツに積極的な友人もいる一方で、普段スポーツをしないけどやってみたい、バスケット、バレー、バドミントン等やっているのは知っているけど参加してもいいのかとか、こういった人たちがしているのかわ

からなくて入れない友人や後輩もいます。例えば若者であればInstagramや、さらにもう少し若い年代であればTikTokなどのショート動画を通じて運動や情報を発信していたければ、もっと若い成人も、よりスポーツをしようと思うきっかけになると皆様の意見を聞いて感じました。

◆事務局（スポーツ振興課長）

今までスポーツをしてこなかった人が、あるスポーツに触れたことでスポーツの楽しさを知ってもっと深く楽しみたいというきっかけは非常に貴重なことだと思います。そういった体験をする人たちを、少しでも増やしたいなと私たちも考えております。スポーツに関するイベントがなかなか知られていない状況もありますので、今後の検討として、県下で行われるスポーツイベントやスポーツができる場所、すでにHP等で集約されているものもあるんですが、それが市町村単位でなかなか一元的に集約されていないこともありますので、今後の検討としてスポーツ施設やスポーツイベントを一元化して情報提供できるようなシステムを作っていけたらと考えておりますので、地道に取り組をしてより多くの県民の方がスポーツに触れる機会を創出していきたいと考えております。以上です。

☆会長

委員の皆様から貴重な御意見を多くいただきました。事務局から何かありますか。

◆事務局

「第3期徳島県スポーツ推進計画」策定スケジュールについて説明

閉会